

令和 6 年 5 月 15 日 議会のあり方調査研究特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、岡 和明、小出 哲義、小田上尚典、
細川 雅子

議長 北地 範久

○欠席委員 なし

○傍聴者 藤川 和弘

○寺岡委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから議会のあり方調査研究特別委員会を開きます。

これまでの活動で皆さんと協議を重ねてきた優先テーマ 1 につきましては、一旦の区切りをつけさせていただいております。今日から基本的には新しいテーマの調査活動を行っていくわけですが、まず日程に入ります。

計画の確認としていますが、これまでの進捗を御報告します。まず政務活動費について、報酬審議会立ち上げてくださいという議長へのお願いの文書は提出して、今事務局で処理が終わりかけているところです。この後は議長に正式に提出されまして御判断を待つことになります。

それから各施設での中継に関してですが、文書を議長にお願いして、議長名でこれから施設の担当課にお願いをしていくことになります。

最後に議会だよりとの連携なんですけれども、これまでも広報広聴特別委員会の委員長と連携、それから情報の共有は行ってきたところです。

おおむねこちら側の考え方というのは御賛同をいただいて、あとは発行に向けての中身については先方をお願いしていくことになろうかと思っております。細かな情報のストック、豆知識とか、議会の流れであるとか、そういったものをもう少し山代チーフと協議しながら言葉を直しながら、広報広聴特別委員会に改めてかがみ文をつけて提出させていただくという段階になっております。

ですので、次回発行の 8 月号には間に合わせていただけるのではないかなと今のところ考えております。向こうの工程の足を引っ張らないようにこちら準備をしていきたいかなと思っております。これが今のところの進捗状況です。

続いて、これからの活動ですけれども、サイドブックに 5 月 15 日の活動計画案を載せさせてもらってます。

今日が 5 月最初の会議ですから、着色して表示しています。御覧になって分かるように、優先テーマの決定を、今月、来月 2 回かけてできればと思います。もちろん今日決まれば今日、早速次回の会議からスタートできるという意味ですのでお願いします。その優先テ

一マが決まったときに現状の把握。それから今ある制度などの背景、経緯の確認を5月、6月にやっていければと思います。

実際の具体的なテーマの協議を6月定例会中から始めていければと思ってます。これまで協議して、ある程度成果が出てきたものの効果の確認を、6月の定例会でやっていけたらと思います。自分らがやってきたものは意味があるものかどうか、ここで見直しができたらと思ってます。必要であれば、定例会ごとにまた効果の確認もやっていくぐらいかなと今のところは考えておりますので、よろしくお願いします。

活動計画について何かお問合せありますか。

随時見直しをしていくということで、一応これを目安に進めていければと思います。

では、日程1はこの程度にして、日程2調査研究テーマの選定に入りたいと思います。

前回の会議で、10月にお示した、アンケートを集計した大竹市議会が持つ課題、これらを中心にしながら次の課題を探っていきましょうとお話をさせていただきました。この4月までの取組の中で生じた課題について触れるのもやぶさかではないのではないかと思います。この話も前回させていただいております。

さらに、また持ち帰ってほかの委員以外の意見も聞きたいということと会議が止まってしまうので、あらかじめそのあたりはやってきておいてくださいというお願いもしております。

今日は、まずはそれらも含めた皆さんの御意見をお伺いして、今後優先順位を決めていければと思います。いいですね。

それでは、次のこの委員会ですら取り扱うテーマ、こういったものにするのか、皆さん方の御意見を伺っていききたいと思います。

発言をお願いします。座ったままで結構です。挙手だけお願いします。

小出委員。

○小出委員　うちの会派の創成会のメンバーと話をしたことも踏まえて、今後のテーマということで三つほど大きなテーマとしては上がりました。一つは、まず議会報告会の在り方というのが当初項目の中に出てきたものであります。これまで議会だよりであるとか、広報広聴活動の中の広報に当たっては話をしてきたかと思うんですが、この広聴ということで議会報告会の在り方を検討してはどうかと思います。それとあともう一つが、議員の成り手不足の解消です。成り手不足の解消の中には女性候補者をいかに出していくか、あるいは兼業、副業についても含まれるのかなと思ったりします。

そしてあともう一つが選挙時期ですね。

その三つが主に上がったんですが、この中で議会報告会については、今まさに7月に議会報告会を行おうとしておりますし、その結果を踏まえた上でのほうがよいのかなと、タイミング的には今ではないかもしれないという意見も出ました。

それとあと、成り手不足の解消については、議員定数と絡んでくることもあるのかなと思います。議員定数もやがてテーマに上がってくると思うんですが、議員定数の話を交えてのほうがよければ、もう少し後回しにしてもいいのかなと思います。そういうことで残ったところとしては選挙時期の話、あるいはやり方によっては成り手不足の解消であると

か、そういったことを取り組んだらどうかという意見が出ました。

以上です。

○寺岡委員長 まず広聴はこちらの意味でよかったですかね。公じゃなくて広聴ですね。はい、分かりました。

議会報告会の在り方を詰めていけばいいんじゃないか、成り手不足の解消について女性候補者や兼業、副業がやりやすい環境づくりが何ができるかというあたりを研究したらどうか、この二つについては今なのかどうかはちょっとまだまとまっていないということですね。選挙時期というのは、もう少し具体的にお願いします。

○小出委員 選挙時期というのは選挙を去年の8月、非常に暑い夏の時期でしたので、もう少し選挙活動、投票行動も行われやすいような環境のときに選挙時期をずらしてはどうかという話でしょうかね。

○寺岡委員長 選挙、投票、投票行為につながりやすい時期を考えてみてはどうかということですね。猛暑というのも今、災害級と言われてますからね。台風の中、投票に行けというのと一緒にすからね。

ほかいかがですか。

豊川委員、どうぞ。

○豊川委員 私からは、小出委員の次のテーマをお聞きして、報告会の在り方、議会報告会ですよね。私7月の議会報告会不参加ということで、すみません、公務を欠席するので。議員から団体さんと呼ぶ、声をかけるというのはちょっとめちゃくちゃなやり方だと思うので、その辺も踏まえて考えてもらいたいなと、今お聞きしてということです。

会派で話し合った結果なんですけど、当初から言っているとおり、議員定数の削減について、結論は置いておいて、じっくり議論していただくというのは大事なことなんじゃないかなと思いました。

昨年の選挙でも投票率が前々回の選挙と比べても大幅に減ったというのもありますし、欠員が出たというのもあります。これ日本全体の課題ではあるんでしょうけれども、人口も減っているんで、議員定数の削減については優先テーマとしてじっくり話し合っていたらなと思いました。

以上です。

○寺岡委員長 定数減の最後のほう、すみません、もう一回、欠員が出てるという現状と。

豊川委員。

○豊川委員 前々回の大竹市議会議員選挙と比較しても、投票率も下がっているんで、そういった意味で議員定数の削減をするというのも話し合っていたらなと思いました。

○寺岡委員長 暫時休憩します。

10時13分 休憩

10時15分 再開

○寺岡委員長 では再開いたします。

先ほど豊川委員から個人的な内容を含む発言がありました。これにつきまして、委員長としては今後の運営について当委員会の領域を脱するおそれがあるので、発言を取り消し

ていただきたいというお話をさせていただきたいと思います。

皆さんいかがでしょうかね。今の発言について、このまま進めてもいいと思うか取り消したほうがいいと思うか、どうでしょう。まず御意見を聞かせてください。

小田上委員。

○小田上委員 今後この議会報告会の在り方に関してやっていく中で、そういうところに関係しないのであれば、別に取消しは必要ないのかなと思うんですけど、今この場で直接それが関わるということであれば取り消すほうがいいのかな、でもどっちでもいいかなと思います。

個人的な意見というところは本人言われてますので、言われましたよね。個人的な意見というのは文脈でも分かるので、あくまでも個人の意見ということで、取り消さなくてもいいのかなと私は思います。

○寺岡委員長 ほかいかがですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 議会報告会に関しては、基本的には議長を含めて議会全体で決める案件だと思うので、参加するしないって話は、この委員会で話すべきような内容ではないと思います。個人的な意見をここで言うていただくのは別にいいんですけども、そこを含めて話すのは確かに委員会としては外れてるのかなと思います。

○寺岡委員長 ほかありますか。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 ユーチューブで市民に広く公開されてますので、それを受け取ったときにどう理解してくれるかなと思うんですが、一つはこの議会としての一つの秩序というのは保たないといけないところだろうと思うんですよね。

ですので、あまり議会報告会をこういうふうにしたらいいい、ああいうふうにしたらいいいという議論はそれは必要かと思いますが今後、ただ、やり方に反対だから出席しないということを市民が聞いたときにいろんな捉え方をされる方がいらっしゃるので、その部分は訂正したほうが、取り消したほうがいいのかなと思います。

○寺岡委員長 ほかどうでしょう。ありますか。

細川委員。

○細川委員 私は、これ本当に個人の思いを述べただけなのでね、それについて委員会で何か検討していただきたいとかいうことではないと思いますので、いいと思うんですけどね、このままでも。

ただ、欠席する以外に言われたのが、団体に声をかけるのがめっちゃくちゃなやり方だとたしか言われたと思いますが、議長と班長会議に対して非常に失礼な言い方をされたと思います。

実際には班長会議の中で、今年はどこを対象にどういう形でやりましょうかというのを議長も含めて班長と皆さんと班長会議で考えて、その結果を各班に振って、各班ではどのように思いますかと、今年は団体対象でやりたいと考えているけれども、それについての意見を求めました。その各班から出てきた皆さんの意見をまとめて、やっぱりじゃあ団体

を対象にということで最終的に決まってると思うんです。

一体どこがめちゃくちゃなのか。きちんとしたやり方をしてると思いますので、このめちゃくちゃだという発言を取り消していただきたいと思います。

○寺岡委員長 ほかどうですかね。

取消もしくは何か、豊川委員、補足で話がありますか。

まだ途中ですので、あまり長く時間を取るつもりはないんですが。

暫時休憩します。

10時20分 休憩

10時24分 再開

○寺岡委員長 休憩を終わります。会議を再開します。

休憩中に調整をさせていただいて、基本的に先ほど私が申し上げた部分、議事録は特に直さないと調整をしました。

ただ、豊川委員から発言を一言していただきたいと思います。

豊川委員、どうぞ。

○豊川委員 先ほどめちゃくちゃという表現を使いましたが、めちゃくちゃというのは、ちょっと言い過ぎたなと思います。表現としては漠然とし過ぎましたし、今後はめちゃくちゃというのは控えたいと思います。

○寺岡委員長 お互い丁寧な言葉遣いをできていけばいいかなと思いますので、引き続き御協力よろしくお願いします。

はい、どうぞ。

○豊川委員 丁寧か丁寧じゃないと言われたら、めちゃくちゃはそんなに丁寧じゃない言い方じゃないと思うので、めちゃくちゃに失礼だと思いますよ、それは。

○寺岡委員長 それは御自身のお考えということですね。ただ、言葉遣いをお互い考えていきましょうというところでお願いします。

じゃあこれは先ほどのいいとして、戻ります。

定数減というところで意見がありました。理由が欠員になっている状況、投票率が下がっているというところを挙げてもらいました。これは減ということでいいんですね。減について話すということですね。分かりました。

そのほかいかがですか。次のテーマについてどう決めていくか。

山代委員、どうぞ。

○山代委員 調の会として話をしまして、上がったテーマは大きく二つあります。

議会基本条例の深掘りとモニター制度です。

議会基本条例に関しましては、前回、私も含めて新人も多くおりましたので説明をいただく機会をいただきました。ですが、私自身も自分でもまだ至らない部分が多々あり、議員としての資質という部分で内容をもうちょっと深掘りいただければなと思っております。

また、モニター制度なんですけれども、議会単体で運用している場合に議員の常識が世間の常識と合致しているかどうかという部分は常に審査いただいて、それを正すような自浄作用というものもある程度必要なのかなという部分と、市民に議会へ興味を持ってもら

うという部分も含めてモニター制度を検討いただければと考えております。

以上です。

○寺岡委員長 先にこっちから、モニター制度、議員の常識は市民の常識か、自浄作用と言いましたね。

(「と合致しているかどうかの自浄作用です」と呼ぶ者あり)

○寺岡委員長 自浄作用と合致、もう 1 個何か言われましたね。

どうぞ。

○山代委員 常に議会として正しく品位を保っていけるかどうかという部分を市民の常識とばかりながらやっていきたいと。

○寺岡委員長 基本的にはこの二ついうとこですね。

それから基本条例の深掘り。勉強会もしてきたけれども、今後も特に資質に関する部分についていろいろ基本条例を研究していきたいということですね。

ほかいかがですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 政啓クラブでまとめた意見ですけども、選挙時期を改めることがまず初めに上がってきました。その中で定数の話とかももちろん上がってきたんですけども、まず選挙時期を改めて、例えば、県議選や市長選にそろえれば、投票率の改善は見込めるんじゃないかという話がありました。

これで直接定数が改善するわけではないんですけども、まず前回は選挙をやったわけですし、いきなり間口を挟めずに、改められるところは先に改めて、あと選挙をほかにまとめられたら経費の削減にもかなり大きくつながるんじゃないかなという意見もあったので、まずそこをやってから定数の在り方についてお話をすべきなんじゃないかということで、選挙時期についてをまず最初にやりたいという意見です。

以上です。

○寺岡委員長 県議選、市長選、ほかの選挙と合わせることによって投票率アップとか経費の減を期待できるのではないかというところ。これがひいては定数について……。

(「まず最初にそっちをやってから定数の在り方を話すべきじゃないかと」と呼ぶ者あり)

○寺岡委員長 減じゃなくて定数の在り方か。まずこっちが優先ということですね。

ほかは。

岡委員、どうぞ。

○岡委員 1 人会派の取りまとめはちょっとまだできておりません。大変申し訳ありません。これからまた進めたいと思います。

今、末広副委員長がおっしゃられたような選挙時期の調整というのは、規程上差し支えなければ検討しても、投票率アップを目指してやっていければ、それはいいかもしれないと思います。その他については、申し訳ありません、1 人会派分をまとめてまた御報告をいたします。

○寺岡委員長 今、岡委員は 1 人の委員としてこの会議に出席してくださってますので、自信を持って発言をしてくださったらいいんですけども、御自身が発言する上でいろいろ

な情報、考え方を持っておきたいというのであれば、ほかの1人会派の皆さんと相談していただいてももちろん構わないんですが、もう今日はテーマ選定をしていきますので、新しいものを次出されたらちょっと受付できない可能性もありますので、そのあたりは御理解をいただいております。

中身が、選挙時期が何か検討ができて調整できるのであれば挑んでいてもいいかという御意見でしたね、今の御意見はね。

私は基本条例を見直し、この半年少しの活動の中で基本条例の逐条解説も含めた部分をもう一回整理をしておく必要があるかなと感じました。

いろいろな協議、議論する中で、基本条例を引用するケースが多々ありましたね。そこで、正しい表現になってるかなという部分が散見されましたので、基本条例も制定されて時間もたちます。一旦見直し整理をしておく必要があるかなと思います。

以上ですかね。

大きく分けて6つの意見が出ました。正直言ってこれを全部テーマにしても構いません。逆に一つに絞って力を注いでいくというやり方ももちろんありだと思います。

前は三つ同時並行で、皆さん振り返っていただいて、あの仕事量でした。議会というのが、趣味のサークルとか学校の生徒会、児童会、あとは自治会もそうなるのかな、そこら辺の団体とは違って、一つ物事を決めていくのにそれぞれの了解を得ながら随分時間がかかります。

やはり普遍性を求めていくんですよね。基本的には私もいろいろ挑戦してみよう、やって駄目ならそのとき次また考えようというスタイルではいるんですが。時間が経過しても変える必要のないもの、こういったものに取り組んでいければと思います。もちろん時代が変わって見直しする時期は起こってくると思うんですが、この普遍性というのを自治会とか児童会、生徒会とは違う組織として組み立てていければと思いますので、そういった意味で皆さんに今から選定をしていていただきたいんですが、どうでしょうかね。お互いがお互いの意見が出ました。基本的にはそれぞれで問合せの時間、それを持ちたいと思います。

例えば、兼業、副業って今どんな制限がかかってるんだろうとか、モニター制度って、議員の常識って。でも議員は、選挙で選ばれてるから、我々は自信持ってやっていいんじゃないかとか、本当例えばです。そういう疑問をぶつけ合って、今提案した方からお答えなり、もしくは提案した人以外がお答えするなり、そういった時間を取りたいと思います。

これから半年以上の時間をかけてやっていきます。今日と次回の会議は結構重要なポイントだと思いますので、皆さんちょっとしっかり考えてみてください。

時間どれぐらい要りますか。10分間でいいですか。それではそのような時間で休憩を過ごしていただきたいと思います。

10時50分まで休憩をします。

10時37分 休憩

10時50分 再開

○寺岡委員長 では、会議を再開します。

先ほどの休憩中にそれぞれこの6つを見ていただいて、一委員としての疑問点であったり、これ自分が言ったことじゃないけど推したいなといったことが整理できたのではないかと思います。

それでは、ちょっとお互いで意見交換、協議というか、討議というか、そういうところに入っていけたらいいかなと思います。ただ、まだテーマ選定の段階ですからね。どうしても細かいところ入っていかざるを得ないところもあるとは思いますが、大きなところからの視点を期待したいと思いますので、お願いします。

それでは発言を許します。指名して着座のままで結構ですのでお願いします。いかがですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 こちら会派で選挙時期の話をさせていただいたんですけども、これを検討するしないもそうなんですけど、その前にできるかどうかの調査と、あと経費減と言っていますが、それが実際どれぐらいになるかというのは調べるのはありなんじゃないかなと思います、検討の前に。それが本当に経費減につながるのかどうか、実際の数字はどうなのかというのをはっきりしてから検討するのもいいんじゃないかなと。

選挙時期についてまず言わせていただいたんですが。

○寺岡委員長 そのほかいかがですか。

山代委員。

○山代委員 私も選挙時期なんですけど、投票率アップ、経費減という部分を絡めれば十分意義はあると思うんですが、選挙時期だけ考えると、暑いからというのであれば、投票の時間って朝の7時から夜の8時まであります。期日前投票で暑いときを避けるということもできます。ただ、暑いから投票をやめたという理由で行かなかったという声もある程度聞きます。

ただ、選挙に興味があったら暑くても行くと私は思ってます。その関係性の部分もちょっと整理をするべきではないかなと思ってます。

○寺岡委員長 暑いからという理由が先ほどの提案の時点ではあったけど、そういうことであれば時間幅が朝から夜までであるということと、そもそも興味があったら投票には行くだろうと。

ほかいかがですか。

細川委員。

○細川委員 選挙時期についてですけども、私も何回か選挙を経験してますが、選挙のたびに市民の方から時期をずらしたらどうかというのを御提案をいただいておりますが、今までそれに対して議会としての考えをお返ししたことないんですよね。

近年やるたびにどんどん暑くなってますから、その有権者の方からの声もどんどん大きくなってくる。それをやっぱり議会として受け止めて、こう考えているというね。やっぱりそうは言っても今、山代委員がおっしゃったように、興味のある方は朝早く涼しいときに行くとかそういう方法もあるから、議会としては変えるべきではないとかね、あと経費節減のためにはやっぱりこのほうがいいと考えるとか、ある程度の答えを返してあげなき

やいけないかなとずっと思ってるので、これについては時期を変えるか変えないか、変えてほしいというんじゃなくて変える必要があるかどうか、変えるならどういう効果があるかあたりは一回検討していただきたいと思います。

あと、報告会の在り方ですが、班長会議で運営とかいろんなことをずっと決めているのに、議会のあり方調査研究特別委員会でやっていいテーマなのかというのはちょっと疑問を持っています。

だから、提案された方はどのように考えているのかなというか、さっき提案の理由の中に7月に報告会があるので、それが終わってからでもいいんじゃないかといった説明がありましたが、まさにそれ終わってから班長会議中心に議員全員協議会でも検討していくべき内容ではないかと思うので、議会のあり方調査研究特別委員会で検討するのはちょっとずれてるような思うんですけど、そこをどう考えたらいいかなと思いながら聞いてました。

○寺岡委員長 提案者はいかがですか。

小出委員。

○小出委員 先ほどは報告会7月にありますので、団体向けにということで初めての試みですので、その結果を踏まえた上で話ができればいいのかなと思ったんですが、今ちょっと会派に戻って話している中では、この時期に議会報告会の在り方ということをテーマにして話し合っても、それはそれで面白いのかなと思ったりもしました。

これは確かに具体的な方法とかということについては多分これ班長会議等で決めるんだろうと思うんですが、ただいろんなやり方、議会報告会の可能性について、あるいは議会報告会は今、年に1回とされてますけども、その回数についてであるとか、そういったことをもう少し探ってみてはどうかなということで提案しました。

○寺岡委員長 細川委員。

○細川委員 そしたら報告会というよりも括弧して広聴ってなってますけども、広聴の在り方について検討するにしていれば、班長会議に対して角が立たないような思うんですけど。議会としての広聴の在り方について、そうなってくると例えばモニター制度とどう関連するのかって話にもなってくると思うんですけどね。それなら賛成かなと思います。

○寺岡委員長 基本的には、議会報告会実施要綱に立ち入っていくことにはなと思います。

それから今、細川委員がおっしゃった広聴ということであれば、広報広聴特別委員会の設置要件の中に広聴入ってますので、それも逸脱しきみかなとなります。

なので、あくまで提案ぐらいまでしかできないかなと思います。こういうふうに協議しましたけど、またそちらで改めて御検討お願いしますとならざるを得ないかなと思います。

小田上委員。

○小田上委員 成り手不足の解消なんですけど、成り手不足の解消を考えたときに、確かにこの間の大竹市議会議員選挙は選挙にはなりました。1人得票数足りず、今1人欠員という状況になってます。ただ、県内のほかの市の選挙を見るとかなり定数より多く出ている状況がある、隣の山口県でも多く定数を超えて出てる状況があると。そこ大竹市って何

が違うのというのはすごく気になるのかなと思います。

そこを見ていかないと、ただ成り手不足どうにか、女性を増やす方法にしても、兼業をやられてる方にしても、本当にいっぱい出てきて市民の方が選ぶ候補がいっぱいいるのであれば、定数も本当に減らすべきなのとかかという話にもなってくるでしょうし、他市の状況の違いとか、大竹市は何で立候補者がここ数年少ないんだろうかというのは検証してみないといけないのかなと思いますが、それができるのかなという。何で大竹市が少ないかという理由が分からない気がするんですけど、具体的に成り手不足の解消って提案された方がどういうイメージなのかというのをお聞きしたいですね。

○寺岡委員長 問合せがありました。

成り手不足の解消について、この委員会ができることで、こういったイメージを持っておられたか、これをちょっと伺っておきたいと思います。いかがですか。

お願いします。

○小出委員 確かに私、成り手不足の解消というテーマで上げました。

ただ、私だけではなくて多くの議員も、この成り手不足についてはどうにかしないといけないということは共通に思っているんじゃないかなと思います。じゃあ先ほど小田上委員が言われたような原因を探るところから、その原因が分からなければ対処のしようもないですし、議会として何らかの対処のしようもあろうかと思しますので、そういうことも含めて成り手不足の解消について少し研究してみてもどうかということで提案させていただきました。大竹市は女性候補が少ないということも、なぜ女性候補が少ないのか、でも市民団体の中では女性で活躍している方もたくさんいらっしゃいますので、そういうことも踏まえて研究してみたいということで提案させていただきました。

○寺岡委員長 今ので答えになってますかね。

この委員会の前段の議会改革特別委員会のときに、このことは非常に大きなテーマと捉えられていました。これを何とかしようやと。その結果で4年間の営みがされてきたわけですけども、改めてそのあたりに注目して、今度は調査研究の特別委員会ですから、調査研究をして、小出委員の言葉を借りれば原因を探る、これは一つのやり方かもしれませんね。間違っていないんじゃないかなと思います。

小田上委員。

○小田上委員 モニター制度なんですけども、提案させてもらった理由を改めて言うと、議会報告会の在り方とか、成り手不足、選挙時期、定数、投票率とか、全部市民の方の関心あってこそなのかなと思うんですね。市民の方の関心がどこにどう向いてて、それと大竹市議会はどう離れているのか。そこが日頃生活してる中で自分たちの議員としての活動の範囲内で話を聞いている人たちを超えてもっと聞けたらいいなと思うので、モニター制度は報酬とかそういうものが必要になるかもしれないですけど、なかなか聞けない人の声が聞けて、案外議員って2年、3年やってれば、このサイクルが当たり前になってきちゃうと思うんですけど、1期丸々やってれば多分なると思うんですね。ただ、市民の方から見ると常識から外れてるようなことが議会の中でいっぱいあるかもしれないですし、そういうのはしっかり出してもらってそれを変えていってPRにつなげられれば一番効果

があるのかなと思うので、モニター制度は、あまり成功している事例を聞かないので、ちょっと成功事例の一番最初をつくりたいなという思いで提案させていただきました。一緒に考えて、いいモニター制度ができたらいいなと思ってますが、これがあればいろんな考えるきっかけになるのかなと思ってます。いかがでしょうか。

○寺岡委員長 何をするにも市民の関心があってこそであるから、そういった皆さんの声を聞いて、今の実態と市民から見たときのイメージがどう乖離しているのかを洗い出すと。改善していった関心を持ってもらうと同時に、我々も市民のいろんな考えを材料にできるというか、参考にできるかというところですね。

小田上委員、このモニター制度も広聴に係る部分もありますが、そのあたり整理は何かお考えありますか。

はい、どうぞ。

○小田上委員 広聴に係る部分ではあるんですが、以前の広報広聴特別委員会でもモニター制度というのは取り上げられてて、ただ広報広聴特別委員会で議会全体のモニター制度って難しいだろうという結論に至ってました。なので、どこかがスタートを切らないといけない。

議会の在り方を研究してるところが、こういう仕組みはどうでしょうとつくってみて、その仕組みの成果を各委員会が組み込んでいくことになれば、別にこちらが逸脱して何かをお願いしている、こっち側で意見を取り入れてくれということをやってるわけではないと思います。仕組みをつくってあげて、その仕組みをそれぞれの委員会、特別委員会がどう受け止めて対応していくのかなと思うので、その各委員会の活動に制限をかけるものとかではないと思うので、できるのかなと思ってます。答えになってますかね。

○寺岡委員長 この委員会で取り扱うことに対する正当性を今お話してくださいましたね。広報広聴特別委員会でも一旦このモニター制度というのは上がったんですが、広報広聴特別委員会の中で、議会全体に関わる仕組みをつくるのは難しいだろうという結論に今のところ至っていると。であれば、議会の在り方そのものを調査研究している当委員会でテーマにするのは問題ではないだろうということですね。

ほかいかがですか。

小出委員。

○小出委員 今のモニター制度についてなんですが、ちょっと誤解を与えないようにとは思いますが、過去の議会でもこのモニター制度については話合いされたという話をちらっと聞きました。結果としてなかなか実施には難しかったという話だったと思うんですが、今の広報広聴特別委員会でも議会だよりでアンケートを取ってまして、なかなかそれ答えも返ってこないという状況の中で、モニター制度をやってマイナスはないとは思いますが、あとその一つの懸念としては、我々議員は市民から選ばれてこの場に立っておりますので、そのモニター的なことというのは我々が市中に出ているいろんな関係団体に出ているいろんな話を聞けば、それで賄えるものではないのかなと思ったりするんですが。そういうことと、あとモニター制度の違いがちょっと分からないので、もし違うものがあれば教えてもらいたいなと思います。

○寺岡委員長 広報広聴特別委員会でも市議会だよりで今アンケートを取っていると。議員が市中に出て市民の意見や思いを酌み上げれば、それがモニターと同じではないかということですよ。

広報広聴特別委員会で取り扱わなかった理由は、特別委員会の任されている仕事の中で議会全体に関わる仕組みづくりは難しいという意味で、つくり上げられなかったわけじゃないので、そこは誤解をしないようにお願いします。

あと、このアンケートはどうでしょう、紙面に関するアンケートじゃなかったっけ。

はい、どうぞ。

○小田上委員 小出委員の質問の、まず議会だよりがアンケートを取るに至った経緯なんですけども、ちょうど僕が委員長やったときだったので、まず議会のモニター制度の取組をしたいということだったんですね。先ほど紹介したとおり、やはり広報広聴特別委員会の所掌の中では全体というのはなかなか取組が難しいのではないかということで、広報広聴特別委員会の中でできることは何だろうというので、紙面のアンケートという形を取って市民の意見を聞く形になりました。そこがどういうふうによくしていくかというのは現在の広報広聴特別委員会でも考えられているところだろうと思います。

それに合わせて、改選前の議会改革特別委員会においては定数の話を終盤行って、その定数の結論がある程度出た段階で次の話に入りました。それは議会モニター制度を検討しますと。時間的なしっかき話し合ういとまがないので、前向きに取り組ましよう、今後の議会にそれを委ねましようという結論を最後の中間報告でしてるので、できないよねという判断をしたものじゃないと思ってらるんですね。

絶対やらないといけないということではないんでしょうけども、前身の議会がやってほしいと言ってるもの、モニター制度と定数の話にしても、また話したほうがいいんじゃないのか、中間報告で触れられているので。モニター制度に触れるということは、むしろ順当な流れを追っているというか、前回の議会が残した宿題をしっかりとやっていくことにつながるのかなと思ってます。お分かりいただけましたかね。

○寺岡委員長 小出委員。

○小出委員 経緯をありがとうございました。

あと、我々が市中に出ていろんな方の意見を聞くということとモニター制度の違い、一つ議員の責任放棄にならないかなというのをすごく心配してるんですが。

○寺岡委員長 どうぞ。

○小田上委員 議員が市中に出るのとモニター制度の違いなんですけど、僕の活動の仕方が悪いのかもしれないですけども、団体幾つか顔を出したり所属してたりするんですけど、結構重複してるメンバーの方もおられるんですよ。新しいところというのはもちろんあって、年々広がってきてはいますけども、もちろん関わりのない方もいます。

今まで議員に直接話をする機会がない人もいると思うんですよ。そういう層の人たちが参加できるような仕組みになれば、全く違うものであってプラスアルファの効果があるんじゃないかなと思うので、どういう方が参加してくれるかにもよりますが。もちろん市中に出て意見を聞くという作業は基本として必要だと思いますけど、それを補完する、それ

だけの意見に偏らないところでは、うまく回れば有効なのかなと思ってます。以上です。

○寺岡委員長 まず小出委員の御意見から、議員の責任放棄につながらないようにしないと
いけんで、それが心配しておられたと。

一方で、議員が市中に出回っていろんな人とつながりを持つというのは今までどおりに
やっていきながら、議員一人一人に直接関わりを持たない市民もいらっしゃるはずなので、
そういった方が市政に関わっていくチャンスになるんじゃないかという捉え方もできるん
じゃないかという御意見ですね。

そのほかいかがですか。

細川委員。

○細川委員 基本条例の深掘りあたりなんですけど、これはちょっとお尋ねしたいんですが、
条例の改正も視野に入れるということでしょうか。

○寺岡委員長 どうでしょう。

山代委員。

○山代委員 基本条例を深掘りするということは、基本をもう一度学び直しましょうという
ところと、その時代時代に合わせてそぐわない部分があれば当然改正をしていくというの
も視野に入れて構わないだろうと思います。すみません、あくまでも個人的な意見です。

○寺岡委員長 議員個人として深掘りの作業の中でもう一回勉強し直したいということです
ね。

○山代委員 その時代時代にそぐわないものがあるとするならば、そこは見直しを図っても
いいのではないかと。

○寺岡委員長 細川委員、いかがですか。

○細川委員 議会基本条例の第22条で「議会は、必要に応じて、この条例の目的が達成され
ているかどうかを検証するものとする。」というのがあるんですよね。

検証の結果、改正が必要と認められる場合は適切な措置を講じるものと条例にも書かれ
てますから、見直しすることそのものは間違っていないと思うんですけど、さっきもちよ
っと報告会の在り方を当委員会でやるのはどうかというのもお尋ねさせていただいたん
ですが、うちの特別委員会で改正等の作業をするのか、私ここに関しては、議長からの諮問
がないとできないという理解だったんですけどね。そこら辺どう理解したらいいのかなと
いうのが今ちょっと悩んでいます。

どう理解したらいいのかね。そういう意味では分かりにくい逐条解説もあるので、もう
少し逐条解説について今の時代に合ったのに分かりやすいものに変えていくのは必要かと
思うんですけどね。

○寺岡委員長 事務局どうですかね。

今の細川委員の疑問点は、議長からなどの諮問が必要なんじゃないかと疑問に思われて
るんですけど、どう捉えればよろしいでしょうか。

○山田議会事務局 いろんなパターンがあっているんだろうと思います。議長の諮問によ
って、どちらかの委員会なりに指示があって、見直しを図るという場合もあるでしょうし、
議会のあり方調査研究特別委員会ですから、基本条例という部分でいうと、そのものずば

り絡んでくるところだと思いますので、もし皆さんで議論されて基本条例を検証されて、議長に提案というか進言するというか、そういった形でやるというのもどちらのスタイルがあってもいいんじゃないかなと思います。

○寺岡委員長 議長せっかく御出席ですが、何かお考え、お気づきあればお願いします。

○北地議長 今回特別委員会を設置するに当たりまして、議会改革というよりは議会のあり方調査研究ということでお願いしとるわけなんですけども、当然議会の在り方、議員のありよう等々を検証してもらわねばなりませんから、そのベースにあるものは基本条例でございます。私の思いの中には基本条例ありきの中で改正すべきものは改正していかないけんのではないかという意味を込めて言ったつもりだったんですけども。当然改正すべきことがあれば、議会のあり方調査研究特別委員会の中で改正すべきものがあるのなら、それは改正に至らなければならないのかなとは思っております。

○寺岡委員長 細川委員、今ので説明になってますか。

はい、どうぞ。

○細川委員 よく分かりました。議長の思いとも全然別方向をベクトルが向いてるのでなければ、ぜひ直していくべきところは直さなきゃいけないかなと思います。

○寺岡委員長 ほかどうですか。

小田上委員。

○小田上委員 議会報告会の在り方についてで、班長会議は、正副議長おられて話をして、その班長会議の中で方向性を決めていくという方法で今やっていますが、なかなか終わった後の検証まで結びつきにくいんじゃないかというのは経験上あります。皆さんこういう課題があったよねという経験値を基に次の議会報告会でこうしたほうがいいんじゃないかという決定をしてるので、そこの検証をしっかりとやる仕組みをどこでつくるんだろうなというのはすごく疑問です。班長会議がもっと頻繁に行われて、そちらでやられるということであればいいんですけど、今のやり方だとなかなか難しいのかなと思うんですが。

報告会は所掌が違って触れにくいということであれば、班長会議とこっちの特別委員会とでどういう優劣があるのか整理がついてないんですけど。でも議会のあり方全体で考えるのであれば報告会も議会の活動、在り方の一つですから、こちらで方向というのは示してあげてもいいのかなと思うんですが、そういうことを考え始めると、この議会のあり方調査研究特別委員会でやる仕事ってめちゃくちゃ多くなって思いながら考えてました。

ただ、触れていいものであればしっかり触れる作業はしないと、ずっともやもやが残って終わってる、毎回、ちょっとうまくいかなかったなというところが改善されないまま手探りで毎回スタートを切ってるような状況に見えるので、どこでやるというのがしっかりすればいいのかなと思いました。ここじゃないよと言われればそこまでなんですけど、どうなんでしょうか。

○寺岡委員長 どちらが上位かといったら特別委員会が上位です。なぜなら本会議場でここは設置されたから。班長会議はあくまで研究機関だと思います。要綱にはそのように記されてはいますけれども、より公に近いのはこの委員会だと思います。

議長、それでよかったですね。班長会議に当委員会は、助言する立場にある。はい。

テーマ候補が少しずつそれぞれ理解が深まってきていると思います。まだ時間ありますので続けていきたいんですけども、どうですか、もう問合せとかないですかね。

小田上委員。

○**小田上委員** 定数減なんですけども、欠員ができた状況というのはある意味市民の方がつくった状況だと思うんですね。市民の意見が反映された状態で今15という状況だと僕は理解してるんですね。言い方を変えれば、市民の方が定数を1個削ったと言えるんじゃないかなと思えるくらいの結果だなと受け止めてます。

ただ、定数を減らすならば、議会は理由がないといけないと思うんですけど、どんな理由が考えられるかは実際やり始めるとなったらやるべきことか。

定数と投票率って多分あまり関係ないのかなと思ったりするんですけど、提案された方は、この定数と投票率の関係性あると考えられてるのか伺いたいです。

○**寺岡委員長** 定数減について、欠員という今の状況というのは民意の反映の結果であると。法律に基づいて選挙がされて、その結果、ルール上も今こうなっている。

それで定数減には理由が必要なんじゃないかなという提言と、今のところ、定数と投票率の相関関係はないと思う。今同じテーブルに上がってるけど、このあたりを提案者はどのように考えているかということですね。

これは豊川委員かな、お願いします。

○**豊川委員** 定数と投票率の相関はないと思うとおっしゃられたんですけども、投票率が大幅に低くなったから多分欠員が出たんだろうとは思うので、もしじゃあ定数が仮に14だったとしたら、欠員も出なくて当選者も14人で結果終わってたかなとは思いますが、議員定数の削減を投票率の低下とともにしていくというのはありなんじゃないかなと考えました。

○**寺岡委員長** もう一回お願いします。すみません。

○**豊川委員** 投票率が下がったことによって欠員が出たんじゃないかなと考えてて、もし投票率が高ければ欠員は出なかったのではないかなと考えて、議員定数の削減は、それによってしたほうがいいのではないかなという考え方になったんですが。

○**寺岡委員長** 投票率が下がったから欠員が出たんじゃないかと分析しておられると、だから定数減をすべきということですかね。ちょっとこのあたりはもうちょっと詳しく欲しいところではあるんですが。

小出委員、どうぞ。

○**小出委員** 多分投票率と定数というのは直接的な影響はないんじゃないかと思います。ただ、間接的な回り巡ってというところはあるのかなと思うんですよね。投票率が低いということは、それだけ選挙に対する関心が低い。ということは立候補者が少ないということです。直接は投票率と定数との関係というのはないにしても、巡り巡っての関係はあるのかなと思います。

そういった話を多分定数減というテーマでのところで深掘りしていったらいいのかなと思います。じゃあ、どのようにしたら選挙に対する関心が増えるのか、投票率が増えるのかという話をそのあたりでしていけばいいのかなと思います。

○寺岡委員長 末広副委員長。

○末広副委員長 今回欠員出たのは法定得票数足らなかったというところで、法定得票数って一定の票じゃなくて割合で上がっていくと思うので、投票率が上がったとしても割合は変わらないので、そこに直接関係はないと思います。

○寺岡委員長 パーセンテージの計算式ですので、直接的にこっちの数字が変わったからこっちの数字も変わるとはならんかもしれんですね、数式に当てはめるとすれば。

ほかどうですか。

細川委員。

○細川委員 2期目以上の方々は前回の4年間の議会改革を経験してらっしゃるのであれなんですけど、あれだけ議会改革特別委員会で議員の成り手不足とか定数について議論してきたことについて今回の提案者はどのように評価されているのか。4年かかって現状維持という一定の結論を出してるつもりなんですよ。そこをどう評価したらいいのかなと。

これ評価はいろいろあると思うんですけども、前々回は選挙になりませんでした。そこからスタートして、やっぱり成り手不足やら議会改革やらずっと話してきた結果、結果はどうあれ、去年は選挙になったんですよ。

私たちずっと関わってきた者として、そこをどう受け止めていったらいいのかというね。そこがしっかりできないまま、また定数について話をしていくというのはちょっといかなものかという思いがあります。どう評価されたのかお尋ねしたいです。

○寺岡委員長 このたびの定数減の提案について、さきの議会改革特別委員会で4年かけて成り手不足その他で定数問題、定数減、定数変更とか、減というより変更ということで話をしてきたと思います。それで4年かけて結論を出していると。その出した結論についてどのように評価しているのかという問合せですが、お願いします。

○豊川委員 私、去年当選させていただいて、4年かけてって前回の議員が評価されてたんだと思うんですけど、私が一昨年の補欠選挙で落選した後にずっと政治活動をしていく上で、いろんな市民の方に議員定数削減のテーマを決めて御自宅などでお聞きするときに、8割ぐらいが議員定数は削減したほうがいいんじゃないかと言われて、今の16人の議員が誰が議員になってるのか分からなかったりとか、個人個人の市民の方がおっしゃることなんですけど、議員名簿に書いてある電話番号に連絡しても電話が繋がらなかったりとか、いろんな理由から、人口減とかそういう理由から議員定数は削減したほうがよいという声が多かったんで、当選させていただいてから議員定数の削減についてはこちらの議会で話し合ったほうがいいのかという私の評価です。

以上です。

○寺岡委員長 ここの議会改革特別委員会の活動、取組については特に何か感想というのはないということでもいいですね。分かりました。

小出委員。

○小出委員 議員定数の話については、私も当初の昨年10月のテーマを上げるときに出しましたので、これは一度この委員会の中で話したほうがいいのかと思っています。

先ほど豊川委員がおっしゃったように、多分市民の方で結構な割合、議員定数のことに

については話に出ますので。そこできちんとした自分が理解した答えを出すためにも、やはり議員定数の話はしてはどうかと思います。

ただ順番として思うのが、成り手不足というのは全国的な問題で、大竹もその波にのまれてるというところはあるんでしょうけど、大竹としてのあるいは議会としてのやるべき可能性があって、それを果たした上で成り手が不足して欠員が出たり無投票になったりということになれば、じゃあ手を挙げた人全員、立候補した人全員が議員になってしまってもいいものか、あるいはそれで議会としての質というものが保たれるものなのかを考えたら、やはりまず可能性、いかにして成り手を増やしていくかというところの話をまず前提としながら、それでも尽くしてもなかなか成り手が不足するよということであれば、議員定数はじゃあどうしたらいいのかという話であるべき、その順番でいかがかなと思います。

○寺岡委員長 この委員会でもう一回テーブルに上げてもいいんじゃないかなという御意見ですよね。

それもそうなんだけど、まず根っこには成り手不足で、また無投票になってしまって市民が議会の議員を選べない状況になるのが心配、ちょっと怖いなといった思いをお持ちということですよ。

これさっきのここの質問ともまたつながるんですけど、議会改革特別委員会で4年かけて出した結論について小出委員はどのように評価しておられますか。

○小出委員 議事録はぱらぱらとは読みましたが、過去の議論の全体というのは十分に把握はされてませんが、日々刻々と空き家問題じゃないですけど現状は進行してますので、また議員定数についても話し合ってもいいものかなと思います。

○寺岡委員長 現状は刻々変わっていると。改めて今の現状を踏まえながら協議をしていてもいいんじゃないかという意見ですね。

末広副委員長。

○末広副委員長 前回の議会改革特別委員会の内容にも触れるんですけど、私も途中で議員になって、1年だけしか見てなかったというのはあるんですけども、アンケートの中で、定数の在り方として十分議論がされてない、これで定数を下げたりしたらまずいんじゃないかと書かせていただいていたと思うんですね。それを鑑みるのであれば、私としては確かに十分議論がそこでされてないと感じたので、この場でもう一回議論してもいいんじゃないかという思いはありますね。

以上です。

○寺岡委員長 ほかに何かありますか。

細川委員。

○細川委員 1期目、2期目の方の思いを伺いまして、この定数問題って、前の4年間の話をしましたが、もっと遡ってずっとやってるんですよね。それについての議会としてのまとめがいっぱい出てますから、まずどういうことが課題になって、どういう議論をしてきて、どういう結論を今まで出してきたのかというのは、もし今からもう一度定数について議論の俎上に上げるのであれば、そこは委員会として1回勉強し直して、その土台の上でもう一回話をしないと深まらないと思います。

○寺岡委員長 恐らくおっしゃりたいのは、市制施行以来、これまで議員はその場その場で随分と減ってきているという歴史があると。その間もちろん私たちの分からない先輩方が意見交換をして出てきた結果があると。それを我々は知った上で、これをテーマにするにしても協議していく必要があるんじゃないかなということですよ、恐らく。

どうぞ。

○細川委員 少なくとも平成10年からの資料はサイドブックに載ってますので、あのあたりはしっかり読み込まれたらいいんじゃないかなと。

協議資料の中に、定数に関する資料というのを事務局が残してくださってますので、これを平成10年あたりどんな話があったとか、全部が全部定数じゃないとは思いますが、一回読み合わせをするとかしてもいいかなという気はします。

○寺岡委員長 いろいろな意見がありますが、まだテーマにすると決まったわけじゃないのでね、これにしてもほかのものにしても。テーマの抽出、選定をしていく上でほかにここちょっと気になるとか、確認しときたい、もしくは反論でも構いませんし、ありますか。

末広副委員長。

○末広副委員長 成り手不足の先ほど小田上委員が他市との比較で話をしたところで、確かに比較難しいんですけども、統計上の比較は多分できなくはないかなと思って、何を比べるかってあるんですけど、例えばですけど、ネットを見てても定数と報酬の関連データはあるんですけど、立候補者数と議員報酬の関連って多分ないんじゃないかなと思うんですね。多分それ調べればやれなくはないと思いますし、例えばですけど、これが有効なデータがあるかどうか分からないですけど、例えば企業の数と立候補者数が関連があるのかとか、そういう調べ方は統計上できなくはないと思うんですよ。

それに意味があるかはここでもむ必要があると思うんですけども、統計上の調査はできると思います。

以上です。

○寺岡委員長 今のは気づきいうことでいいですかね。

ほかどうでしょう。

小田上委員。

○小田上委員 順番があるのかなとすごく思いました。

例えばモニター制度をやって仕組みをつくって意見が聞けて、成り手不足どうやったらいいですかねという話もできて、じゃあ報告会でこういうことしたらいいんじゃないという意見をもらえる、定数についても意見をまとめていくという順番なのかなと思って聞いてました。

成り手不足のところでいえばなんですけど、何で選挙に立候補しないのかというのが、今立候補してる人たちなので、ここは、本当のところは分からないと思うんですよ。やらないといけない、やるべきだと思って立候補してこられてる皆さんなので、本当にやめて今迷ってるんだという方とか、本当にやめちゃったとかという方、何だったんだろうというのを解消してあげないと駄目なんだろうと思うんですね。

そこをどうやって見つけるかというのは、ここで話しても無理なんじゃないかなと。

多分前の議会改革特別委員会では言ったんですけど、もう最後腹くくるしかないでしょうという発言をしたと思います、僕は。

ただ、腹をくくれない理由が何なのかという話をすると、その前身の議会改革特別委員会のときには、経済的な不安だったり親族から止められるとかいろいろ出てました。でもそれを乗り越えてきてる人たちが言ったとて、あまり意味はないなとあの議論を経て感じたので、それをやっぱり断念した人、引退された方でもいいですけど、何で辞めたのかとか含めて聞けたらいいんだろうなと思うんですけど、公の場でなかなかこういう聞くの難しいなと思ってます。

でも本当のところのハードルってなかなか表に言えないところにあるんだろうなというのを思いながらなんですけど、そこを解消しないと無理じゃないかなと思いました。

以上です。

○寺岡委員長 まず最初に、順番にやっていくというのが意義があるんじゃないかということですね。全部をやるかどうかは別として、何個かを一遍に並行じゃなくて順番に成果を積みながらやっていくというやり方はどうかということと、ここにいるのは手を挙げているから、皆さんが何で立候補しないのかの協議は限界があるんじゃないかという気づき。それから手を挙げない人、やめた人、理由何だろうという疑問と、本当のハードルは見えないところにある。

これ前回の議会改革特別委員会で、委員の皆さんがそんな意味ないわみたいな感じで何か途中でやめたような記憶があるんですけどもね。こういった思いは持っているということですね。

ほかどうでしょうかね。

豊川委員。

○豊川委員 私も前々回の大竹市議選で立候補しようかなとか考えてた人間なんですけど、前々回、無投票になって投票率も低下しているということで、自分も何か錯覚してたというか、成り手不足の解消についてなんですけど、そもそも成り手不足なのかとちょっと考えるようになって。2015年の選挙は新人が6人立候補されて、2019年、無投票のときも3人で、前回の市議選が新人が6人も立候補されてるので、そういうところを見ると、ちょっと成り手不足の解消というのは優先のテーマではないような気がするんですが、いかがでしょうか。

○寺岡委員長 そもそも成り手不足なのかという疑問があると、なので優先テーマではないのではないかという御意見ですね。

細川委員。

○細川委員 成り手不足、新人の方が大勢出るということであれば、何で無投票になるのかという現職が辞めちゃうからですよ、逆に言えば。何で長続きしないかと、現職が辞めないような魅力ある議員、議会にするのにはどうしたらいいかとテーマを変えたらいいかがでしょうか。

○寺岡委員長 新人いるのにいわゆる成り手不足なのは、辞める人がいるから、多いからという理論から。

細川委員。

○細川委員 辞めたくない議会、ずっと続けていたいような職場、職場と言っていいかどうか分かりませんが。

魅力のある議会にするべきかと。

○寺岡委員長 これ今の一つの意見というか、気づきというか、こういう視点もあるよねというそういうことですね。

小田上委員。

○小田上委員 辞めたくないというのは何かぬるま湯だからみたいなイメージじゃないということですよ。やりがいがあるということで、そのやりがいも多分こういう特殊な世界なので、自分の中でのやるべきことがある程度切りがついたと思ったら辞められる方もおられるでしょうし、ということであればサイクルに合っていないということだと思うんです。そのサイクルに合っていないということは、やる人が少ないイコール成り手不足なのかなと思うんですけど、これ言い始めると長いので、別にいろんな考えがあるというところで、あまり深く言いません。

○寺岡委員長 補足としてぬるま湯という意味じゃなくて、自分の思ってる志を達成できたということですね。やりがいというのは確かに議会の中では必要だろうねということですね。

小出委員、どうぞ。

○小出委員 この委員会で改めて成り手不足について話し合うかということですが、ある議会で、やはりその議会も議員成り手不足に非常に苦労してまして、どういう試みをしたかという、まさしく議会報告会で団体向けの議会報告会を始めたというんですよ。それで一定数の効果があったという話を聞きました。

今回私は議会報告会で団体向けにしてはどうかという提案したそのうちの1人なんです。やはり自分たちが議会議員に立候補しようと思ったときに、やはり背中を押してくれた人とかアドバイスしてくれた人というのが必ずいると思うんです。まだ立候補されてなくてもその背中を押してくれない、アドバイスをくれないという方がいてなかなか候補者につながっていないという部分も多いんだろうと思うんです。

そういった部分での働きかけというのはこの議会でもできるんじゃないかと思いますので、今度の議会報告会の成果というのは非常に気になるころではあるんですが、もしその団体というのは非常に地域の名士の方もいらっしゃいます、地域の御意見番の方もいらっしゃいます。団体とは言えども市民の1人ですから、そういう方に向けて発信する。またその団体の中には未来の候補者がたくさんいると思いますので、そういったところに議会のありよう、魅力であるとかそういうことを十分に伝えられれば、その背中を押す一助になるのかなと思います。成り手不足の解消、議会報告会だけじゃなくて、やはり議会として取り組めるものがあるんじゃないかと思うので提案させていただきました。

○寺岡委員長 団体向けの議会報告会をある議会でやられて効果が見られたところがあると。そういった未来の候補者は団体の中にもたくさんいらっしゃるの、志ある方への後押しの一つにもなるんじゃないかという御意見と気づきですね。

いろいろ出てきました。もっと本当はやりたいんですけどね、結論は次回に送りたいと思います。

ワークシートをまた早いうちに作って皆さんにメールでお届けをします。まず個人の思いというのをまとめていただきたい。先ほど普遍性と書かせていただきましたが、あと実現性と優先性、それから即効性であったりとか、あとはアイデンティティーというか根っここの部分であったりとか、そういうのでちょっとマトリックス作って皆さんにお送りしますので、そのワークシートをそれぞれやっていただいて、また持ち寄って集計したもので、これ得点をつけるものじゃありません。それぞれのいいところ悪いところといいますか、取り組むべき価値、今やるべきこと、重要だけど今じゃないこと、さっきの順番もそうですね、順番もちょっと加えるようにしましょう。こういったものが皆さんが今それぞれどう思っておられるかが分かるようなワークシートを作ってきますので、それをちょっとお待ちいただきたいと思います。次回何とか結論を出したいと思います。

何個今の自分たちでできるかというのもイメージしてくださいよ。全部できんことはないけど、常勤以上働かないけんくなりますからね。ですから、そこら辺も踏まえながら判断してもらいたいと思います。

次の会議なんですけど、6月定例会の会議は議会運営委員会で決まりますけれども、21日金曜日が予定されています。ちょっと日があるので、この前にもう一回できそうですね。ワークシートをいろいろ調整しながらやるとして、今月の終わるか来月の初めぐらい、このあたり皆さん御都合いかがでしょうか。本会議初日が17日で、議会運営委員会が10日にありますから、その頃ぐらいからは一般質問される方はその準備、議案の調査なども入ってきますので、できればそれまでにやりたいですね。

6日いかがですか。

○山田議会事務局長 議長不在でよろしければ6日にしていただいて。

○寺岡委員長 議長にはまた後ほど報告をさせていただくということで。

6月6日木曜日の10時からさせていただこうと思います。

今日の会議のメモを作って、来週半ばぐらいまでには皆さんのお手元にワークシートをお届けできるように私も頑張ってみますので、そういった流れでよろしいですかね。毎度申し上げますが、持ち帰って会派に相談したいというのができるだけないように、事前にそれぞれ調整をした上でお考えまとめていただけたらと思います。

では、今日は取りあえず6点挙げるだけ挙げて、あと中身についてそれぞれ時間かけて意見交換しましたので、深まったんじゃないかなと思います。自分たちがどのテーマを優先的にやっていくか、もしくは順番立ててやっていくかを決めていきますので、よろしく願いいたします。

では、以上で議会のあり方調査研究特別委員会は閉会します。どうもありがとうございました。

12時03分 閉会